

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援/放課後等デイサービス Olinace袖ヶ浦			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 21日		～	2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	<ul style="list-style-type: none"> ・「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 ・数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることができ、また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ・ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。 	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	事業所の療育スペースの広さ	運動遊びでは様々な運動プログラムの提供が不自由なく行えることや、子どもたちが十分に体を動かして遊んだりできる広さを確保している。運動遊び以外にも、室内において様々なイベントを実施している。	自由時間において、体を動かして遊びたい子どもたち、ブロックやおままごとをしたい子どもたちと分かれてしまうことがあるため、今後も怪我のないような環境作りを工夫していく。広い環境をいかして、今後も様々なイベントを企画し、「また行きたい!」「行かせたい!」と思ってもらえるようにしていく。
3	個別学習	未就学児においては、巧緻性を育むプログラムを取り入れている。小学生においては、個別に宿題のサポートをしている。苦手な教科に対しても興味・関心がもてるように支援している。「できた」という成功体験を多く積み重ね、次へチャレンジする気持ちを育てている。	今後も職員間で情報共有や意見交換しながら、さらに個々に応じた支援の充実を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流	当事業所で行う活動を優先しているため、現時点では交流が図られていない。地域の幼稚園や保育所との交流、児童館との交流、地域のイベントへの参加方法を検討する必要がある。	地域や他事業所の活動情報に目を配り、土曜、祝日、長期休みなどに、参加できそうな催しがあれば、状況に応じて参加を検討していく。
2	保護者との面談の機会/保護者支援	現時点で面談の希望がなく、周知に至っていない。保護者会については、仕事をしている保護者が多く、開催する時間の確保が難しい。	送迎時や個別支援計画の見直しの際に口頭で伝え、ブログ等も活用し、周知を図る。他教室とも連携をとりながら、保護者同士が交流ができる機会を検討していく。
3	開所したばかりで、保護者や利用児童が不安に感じていないか	利用日数が少ない児童もいるため、信頼関係が十分築けていない。	利用児童に対しては、安心して過ごせる環境を整え、個性や感じていることに寄り添いながら支援していく。送迎時に保護者へ丁寧に日々の様子を伝え、相談しやすい関係性をつくる。